

概要版 (詳細は当日配布資料参照)

緑アカデミープレ企画 これからの共生社会を創造する滋賀の福祉人セミナー
～新しい時代のソーシャルワーカー像をめざして～

日時：令和2年1月16日(木)・17日(金)

会場：滋賀県大津合同庁舎 7階 7B会議室

申込参加者：39名 当日見学等あり。

1日目 1/16(木)

オープニングセッション「これからの共生社会に向かって福祉専門職を創造しよう!!」

上野谷先生(同志社大学院)・山口氏(大津市社協)・谷口(県社協)

👉新しいソーシャルワーカーの姿を、実践の積み重ねを通した語らいから一緒に考える。

<谷口氏>

- ・津久井やまゆり園事件が起きたとき、緑で行動を起こそうとすぐに集まれる仲間がいた。
- ・どのようなことにも、半分は熱く、半分は冷静な頭で考え、実際に行動すること。現場のない福祉の職場はない。

<山口氏>

専門職としての変化は「助けて」とSOSを出せたこと。

会議に不満が残ることがあり、一緒にやろうと声かけ、一緒につくっていった。

👉支援者の多くは、助け上手でないといけない又はそれをめざそうとしていないか？

★支援者自身が、助けられ上手になること！

→自分の“弱さ”にも気づき受け入れ、人に助けを求めることも大切。

→しんどい時こそ、学ぶこと。

👉物事を決めつけていませんか？

表出されていること、言葉だけではない後ろにあるものを知る。

わからないことはたくさんある。決めつけずに関わること。

求め(表出される声)→必要(ニーズ 背景や事情を知る)→合意

★仲間を増やしていくこと。

多分野の人とのつながり。実践者同士だけではなく、研究者との協働も重要。

どの機関に相談ではなく、誰に相談するかがキーポイント。そんなつながりを。

講義1 「滋賀の福祉実践とソーシャルワークで前を向く」 空閑先生(同志社大学)

グループでアイスブレイク ・・受講者に、今日ここに、居場所をつくる意味。

👉ソーシャルワーカーとは〇〇な人？

各自で思うことをグループで共有。➡全体で共有。(語る言葉を豊かに・・・)

地域共生社会を考えると、津久井やまゆり園の事件を忘れずにいたい・・・

👉あなたは、この事件に今何を思いますか？

改めて、糸賀先生の思想を考える。(一部引用) 社会の様々な矛盾の中であって、人間の新しい価値観の創造をめざす歴史的な戦いの一環である。今、時代は、ソーシャルワーク、ソーシャルワーカーが求められている。地域の「希望」として。

ソーシャルワークは「その人が生きてそこにいるということ」そのものの尊さ、かけがえのなさを手放してはいけない。あなたが存在することはいいことであること、その人の「生(life)」にまなざしを据えて、社会的に肯定するソーシャルワークが大切。

ソーシャルワークを担う事業所、施設の存在が、地域の「大丈夫」でありたい。

問題の自覚が、ソーシャルアクションに発展する可能性をもつ。福祉の資源は施設ばかりでなく、住民が主体的に取り組めば、それらの制度そのものが、偉大は福祉の資源になる。

★ソーシャルワークで前を向く！！

ワーク 1 「連携のために今日から大切にしたいこと」 山口氏 (大津市社協)

📖 コーチングを身につけよう！

<ティーチングとコーチングの違い>

ティーチング：知っている人が知らない人に教える、できる人が教える指導法。

コーチング：基本的に、「教える」「アドバイス」をせず、「問いかけて聞く」対話を通して、相手自身から様々な考え方や行動の選択肢を引き出す。(双方向のやり取りを通して気づき、自発的な行動を起こすことを促す手法)

📖 コーチングの練習 (自転車の乗り方を見るだけ、聞くだけで乗れますか?)

3人Grになり、受ける役(相談役)、コーチ役、見る役の体験。

見る役の人が、コーチ役の良かったところをフィードバック。

★(研修後が大切) 30日間で6回振り返る。

行動をかえてみること、要約カードを作成し貼って見る。

上司を巻き込み(研修前後の上司からのひと声)、職場で実践する。

講義 2 「地域住民・当事者の視点を大切に地域に入る」 藤井先生 (関西学院大学)

📖 あなたの地域での立ち位置は？

専門職の自分と、地域住民としての自分。そのズレを感じ続けることが大切。

相手の立場にも立ってみる。そしてまた自分の立場に戻って考える。“幽体離脱”のように・・・

住民主体。生存権の決定主体である。住民は育つ。

地域共生社会

地域生活支援のアプローチ(孤立、排除から地域とつながる・当事者主体)と地域づくりのアプローチ(孤立、排除しない地域づくり・住民者主体)が重なる。

Ex.高齢分野は、地域はみんな高齢にはなるので親和的。障害分野は、地域は私とは別と考え、無関心になりがち。

施設入居者も地域住民である。社会福祉施設の社会化と地域化。

例えば、施設は地域で暮らせないような方をひき受けている課題がある。そういう弱みをもっている社会ということ。

ただ、基本的人権は、住民が決めるものではなく、排除を容認してはならない。

ワーク2 「施設も地域も共に福祉実践を語る」 山口氏・野村先生

講義2も踏まえて、住民主体を考える。住民のことを抜きにして決めないこと。

👉 グループごとに、各自が関わっている孤立排除の事例紹介をし合い共有。

(他者の事例を共有することで、理解を深め、連携の大切さなど今後の参考になった。)

自己移入と感情移入(自己同一性)との違い。

↳ 当事者、周囲、行政など、他者を自分に置き換えて考えてみること。

2日目 1/17 (金)

ワーク1 「滋賀の福祉人の実践から宝を掘り当てよう」

野村先生(同志社大学)・大谷氏(甲賀市社協)

👉 大谷氏自身のストーリーを活用しながら、「宝(パール)」を見つける!

対話する手法: アクティブ・ブック・ダイアログ

私の立場に立って(置き換えて)話し合う方法: ケース・メゾット

<関心、視点の置き方>

「私たち」がどんなところにたっているか。→事例を知る

「私」の行動 →事例で考える

「私」の思考・感情・感覚 →私をいかし

「私たち」の相互理解 →仲間の苦闘する事例をかりて「私」の気づきや考えを「私たち」の動機付けへ。

研修での学びを定着させるために・・・

前日の研修の振り返り(★リビジット: 参加者が主体的に振り返りを行うこと。自分が戻りたい場所へ戻る。)

研修後、30日間に6回の振り返りを主体的に行う。

脳が集中をキープできるのは90分。大人が記憶を保持しながら聞けるのは20分。脳が受け身であることが10以上続くと興味を失いはじめるので8分ごとに参画することが重要。

👉 アクティブ・ブック・ダイアログ (1冊の本を分担して読み、要約し、発表共有。その気づき、対話プロセスを通して、能動的な気づきや学びを得る。学びは、やりたくない思いからは得られない。)

大谷氏が大切にしている本の中の1冊『「聴く」が「効く」』を活用。“ぼちぼちいこう”
[方法]グループで分担して読む→個々に要約(A4 1枚)→連結して壁に貼る→著者になりきりひとりずつ発表し共有。→各自が「なるほど」と思うところ2か所に付箋を貼る。→自分の思考や感情を仲間に開示しつつ、プロセスに参加、貢献する体験。

大谷氏のインタビュー形式で、体験のプロセス、大谷氏のストーリー（失敗談、もうだめだと思ったこと、そんなときの支え、やってみること等・・・）を聴く。

話を通して、クリニカルパール（経験から出た言葉や体験）を探ることから、自分自身の気づき、パールを！

ワーク2 「滋賀の福祉人実践とソーシャルワーク」

高齢分野：森本氏 障害分野：木村氏 児童分野：山本氏 Co：上野谷先生

各分野から、実践を通して大切にしていることの報告を通して、学びを深める。

<森本氏>

- ・人相手の仕事のおもしろさ。
- ・迷ったときには、原理原則に立ち戻る。
- ・制度は、必要があり、所詮人間がつくったもの。よく良く対人援助をすすめていく。
- ・職員の成長速度は違う。障害者雇用や外国人もいるが色眼鏡でみることなく、心のバリアフリーを。職員に対しては「許容」すること。
- ・管理職業務も多いが、現場に軸足は置いておきたい。実践者としての歩みをすすめたい。

<木村氏>

- ・必要なものは届けるという心意気の中、法人として事業を広げてきた。
- ・障害者は、社会参加のプロセス（例えば、行動障害がある方の外出）に色んな支援が必要で、専門職の力が試される場所。
- ・利用者の日常の写真を見ながら・・・この距離感で関わることを大切にしている。この距離感で、私たちが安心してもらえる存在でいられるかが重要。
- ・常に利用者ニーズと地域ニーズと向き合うこと。距離感を大切に、利用者の後ろにあるニーズを汲み取り、地域の声を聴いていきたい。

<山本氏>

- ・子どもに個室を用意。子どもの居場所づくりであり、家庭に近い場所づくり。そして、自立した際の参考になるように考えている。
- ・子ども養育について、幼少期は手をかける、児童期は目をかける、青年期は心をはかける。ひとりひとりの子どもと向き合い、心の育みを大切にする。
- ・日頃から、子どものことはいっぱい話し合い、支援の手がかりをみつけていく。子どもからの気づきを教えてもらっている。
- ・障害がある子どもが増えていて、必要な情報も得ていきたい。
- ・子どもの成長を喜べる職員でありたい。子どもに幸せになってほしい、社会の中で生きる力を育ててほしい。子どもが「生まれてきて良かった！」と思えること。

クロージングセッション 「新しい時代の実践を私たちから発信しよう！」上野谷先生

魂を伝えていくことが必要。

助けられ上手（自分の弱さを認める）、助け上手に生きる。

社会福祉・・・「幸せさがしと幸せ創り」

地域福祉・・・生活者主体

- 構成要素 ①福祉課題を解決する。
②福祉課題の解決に向けた自治的に政策を展開する。
③コミュニティをつくる。
④福祉を支える住民になる仲間を創る。

住民が地域に福祉を創る。

生まれて死を迎えるまで、様々な社会的な役割があるが、色んな侵害がある。関心を持つことが大事。

生活支援の充実が必要。→機能連携が大切。(他職種が代用している場合もある)

実践と理論と政策（制度）が総合される時代へ。

社会福祉は、価値を実現する領域である。

学びつづけなければならない。

分からなくても、わかろうとするかどうか、関心をもつかどうかが重要。

最後に、リフレクションムービーを流し、縁アカデミーを振り返った。

～新しい時代のソーシャルワーカー像をめざして～
“ソーシャルワークで前を向く” 明日へとつづきます・・・

以上。